

ファイナル風

(現場)からの

宮田守男

10月上旬、白馬村細野諏訪神社で行われた「平成30年度白馬連峰遭難者慰霊祭」に参列した。大正以来、各宮家が白馬登山に際して

必ず参拝し、登山の安全を祈った由緒あるお宮だ。境内に昭和40年に氏子の寄付金で慰霊碑が建てられ、昭和41年から毎年慰霊祭が行われている。遺族や村関係者約100人が参列し、平林秀文宮司が神事を行った。慰霊碑の題字は、元法務大臣唐沢俊樹代議士の文字で「白馬連峰遭難慰霊塔」。「連峰」が「連峯」の記述に歴史の重みが生かされている。神事直前から、今にも雨になりそうな天候に。全国各地から参列した遺族は、遭難者の遺影の写真を持ちながら参列。最愛の夫や子供、

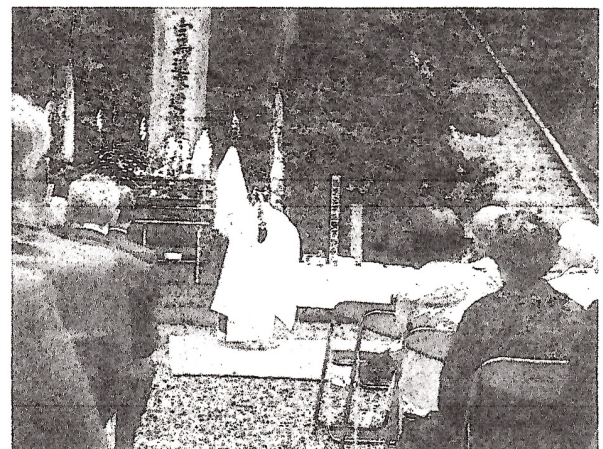
知人、友人をこの山で失った人達の悲しみの深さが強く伝わってくる。白馬村内には、白馬村八方向にある遭難対策センター横に昭和51年に建てられた慰霊碑がもう1カ所ある。こ

回慰霊祭に参列してみても、受け入れ地元として、山に青春の命を懸け、厳しい自然に挑戦する純粋な皆さんに対して慰霊を続ける大切さを体験できた。この崇高な慰霊祭が、続くことを祈るばかりだ。

とされ、一礼してぐること。参拝を終え、境内を出る際も社殿の方に向かって一礼。参道は中央を避けて進む事や参道の中央を横切る際は、中央で神前に向き直って一礼。手水舎の水で心身を清める

地域行事に参加する事で、地域で生きる知恵の必要性が見えてくる

「手水をとる」は、左手を清め、右手を清め・・・心の中で確かめながら行う。玉串拝礼では、玉串の受け取りでは右手は上から、左手は下から。そして玉串台の前で一礼し、時計まわりに廻り立って左から右手を下げ祈念を込め、



巫女の「鈴の舞」が踊られると、木々の多くの葉が参列した遺族に舞落ちる

続いて左手で玉串の根元を時計まわりに廻し、右手を玉串の裏下に添え台に乗せ、深く2礼。そして2拍手、一礼。個人的な参拝ではないので、緊張した事・白馬村森上) (NPO法人信州地域社会フォーラム理